

刊夕日三廿月二十



定価 一月五拾五圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年五拾圓
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社

信仰身の上相談

眞 繼 雲 山

有るか無いか 死後の靈魂

【問】私は助産婦と看護婦を業とする一職業婦人であるが、天性美貌にめぐまれずしかも世間の裏面をあまりにも見透してしまつた私は配偶者を求める氣にもなれず、又良縁にも恵まれず中年にして獨身、前途もおそらくは獨身にして終ることでありませう、さう考へて來るときに本統に人生の淋しさを感ずります。なまじしひたげられた結婚生活に苦勞するよりも結局只今の方が氣樂だとも考へて配偶の方は、とくの昔にあきらめてゐるのです。たゞこのまゝ死んでしまつてそれなりといふことでは人生は如何にも意味の無いやうにも思はれます。職業から多くの死にゆく人々の臨終をも見て居りますが自分の身に引くらべて、さうした時に氣にかゝるのは死んでの後に靈魂があるものか無いものかといふことでありませう。それについての御意見を御伺ひしたいと存じます。(〇市或る看護婦より)

佛性としての靈魂は永久不滅

【答】佛御在世當時にも或る弟子が、あなたの問はれたやうな問題を佛にお尋ね致しました。釋尊は「そんなことを聞いてそれが何になる」とお答へになつたと御經文に見えて居ります。實際私達は死んでの後に結構な極樂があると説明されても「それでは早く極樂へゆきたい」と考へる代物ではなくどれほど極樂が立派であらうと、矢つぱり苦しつてゐたいのが本音であります。死後の靈魂の有無については幾千年來多くの人が悩まされて來た問題であり死んで歸つて來た人のない限り恐くそれは永久の謎でありませう。まだ死んだことのない淺學な私は固より御問にお答へする資格はありません。佛敎ではどういふ風に説くかと申せば先づ靈魂の定義として常識的に考へられてゐる肉體の外に實在する精神の實在を意味するものとすれば、佛敎は元來左様な靈魂の存在を主張いたしません。既に皆空無我といふことが佛敎の鐵則であるとすれば以上此現身にさへ執すべき何等の自我はないのであります。

七五三用 御祝 子供服とオーバー賣出し

お坊ちやま お嬢ちやまの楽しい
 嬉しい お宮参りに 可愛らしい
 なかやの子供服とオーバーを御選
 探のほどを.....

ふかや洋服店 平電203

ばまして死しての後に自我の連續とも見るべき靈魂の實在を説く筈はありませぬまた手足があつてすら思ふに任せぬ人生であるのに、手足も目も口もモギ取られた個我意識だけが永久にフツツと存在するとなつたらこれ程厄介な困つた問題はないのであります。(續)

腕提掛置時計
 眼鏡 新型
 指輪
 ビクタール特約店
 コロムビア
 正月新譜入荷
 昭和八年度棹尾の大奉仕
 全商品 一割引...大賣出し
 一圓以上

●靴...一割引の外...附屬品進呈
 ●期 間...十二月
 好評...定評有る...大塚の靴
 ボックス半靴 五〇〇より
 編上靴 六〇〇より
 ◎七五三御祝...小供靴 七〇より

御用命は...大塚 製靴部
 運動具部
 平・田町 電話七十七番

店計時堂光金
 五九一電

中村齒科醫院

平町 鍛冶町 七

旭硝子株式會社製品
 赤菱印
 板ガラス
 硝子 子 壇
 硝子 食器
 其他 各種

製造 販賣
 松崎硝子製作所
 平町新川町(電話一四二番)
 支工場 仙臺市榮町(電五九七番)

吸入用酸素

純度 99%

●寫真材料一式販賣致シマス
 ●秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局
 電話四〇番

井坂醫院

平町田町 電話五五九番

專 門
 産科
 婦人科
 花柳病科

●入院隨意

阿康藥舗

平町古鍛冶町一〇
 電話四四番

大層お寒くなりました。皆様にはヒヤシヤシやケでお困りになりませんか、熱い火や湯でヤケドなされた時でも直ぐツケますればヒブクレにならずに済みます。キク印太乙膏があれば安心です、お試用見本無料で差上げますからドウゾ御遠慮なくいらして下さい。殊にクサにはモットモ良く二、三回ツケればキレイに治ります。

キク印
 ヤケド キリキズ
 クサはだのアレ
 ヒビ あがざれ
 シモヤケ たざれ

太乙膏
 専賣店

皇太子殿下

御生誕の喜びに

急施町會を開いて賀表奉呈

本日午前六時卅九分親王殿下御生誕あらせらるる此日平町にては此の天來の吉報を入手すると共に轟然二發の煙火を冲天に響かせて喜びを町民に頒つ、師團長の宮殿下御在平の折柄とて彌高町民の歡喜渦巻き各戸に翻る國旗も晴れやかに各學校にては嚴肅に遙拜式を擧げ午後二時より急施行町會を開いて賀表奉呈を議決する等祝慶の氣分に満ち溢れた

匡救 工事 繰上督勵

來春二月迄には

是非完成させる

平土木監督所管内本年度各町村の匡救工事は六十餘ヶ所に總工費三十萬圓に達して居るが本縣よりの督勵に依つて年度變迄完成豫定の全工事を明春二月末迄に繰上げる方針なので同監督所は各町村を督勵し工事を急がせ湯本町の道路改修内郷村の河川改修等は早くも一月中に竣功し他町村の工事も大體二月一杯には終る迄に至つたが高久村の道路改修工事のみが非常に遅れて居るので目下晝夜兼行で工事を急がせて居る

中作漁港

本橋工事に

江名町中ノ作漁港の修築工事は農林省の補助を得

施行され度いと主務省に陳情して居る

休暇を利用し

各選手猛練習

平商野球部及び競技部では今期休暇を利用して各係教諭コーチの下に猛練習を行ふ

平商の成績優良者

けふの終業式に發表

平商では本日午前十時より同校講堂に於て第二學期終業式舉行後全校生徒の成績を發表したが各學年に於ける今學期の成績優良者は左の如くである

- (一年) 1 松島精 2 齊藤重雄 3 會田長太郎 4 難波一郎 5 渡邊清 (二年) 1 松本貞男 2 賀澤貞男 3 黒川壽三 4 鈴木正平 5 金成新一郎 (三年) 1 梅原三郎 2 大高正己 3 岡田彦太郎

家庭訪問

平商の職員

平商では學校と家庭の聯絡を取り教育の完全を期する爲め今期休暇を利用して職員一同が各生徒の家庭訪問を行ふ

同情金の分配方法

平町社會事業助成會協議

平町社會事業助成會では年未貧民救助の爲め過般募集せる同情資金の分配法に就いて廿六日午後一時より役場會議室にて協議會を開く

祝

親王殿下御誕生

軒下げ奉祝提灯、行列用提灯、國旗及玉の
御用命は是非
スガノヤ提灯店へ

平四丁目(電九五)

三井タクシ

平町二丁目 電話六八五番

看護婦急派

の求めに應じます

平町南町

平看護婦會

電話三〇七番

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電話一〇七



巷の話題

何の因果だろう
西白河郡西郷村白岩善人
さんは長男の善一(三)も次男の善次(八)も同じ六歳の時同じ爐にころげ落ちて顔面手足等に火傷したのでいつも注意はしてゐたのだつたがまた六ッになる二女のミツヨさんが爐邊で遊ぶる中に同じ爐にころ

落ち助かりさうもない大火傷を負ふたのですつかり悲觀し日夜因果な人生を悲しみ續けてゐる、善次さんは文字通り善人だつたのに

山の神はこい
啓君の女房おかの(三)さんは乳香子を置いたまゝいつの間にか姿が見えなくなつたのでサア大變『清作さん、大變です家の女房が雲がくれましたよ』
「な何? おかみさんが!」
「それは大變、おすが!」
おすが! 啓さんどこの!

近頃天理教に凝り出した強首局の菅原憲太郎は總本山參拜の金がはしくつて出動したのだつたが折柄二十圓と三圓の爲替依託をう

おや變だぞツ、ウワア! 家のお神さんも雲がれたア! だが隣同志のおかみさんたちは夜のあけぬ中にと近所の工事場から薪の丸太をぬすみ出さうとして警戒の警官に捕まり冷たい留置場に雲がくられてゐたのだつた

「旦那ア一生のお願ひこゝで儲ても生活の資本がな

連日の御巡視に

お勞れとも拜されず

けふ御歸仙の途に着かる

片倉製糸無上の光榮に感激

連日の御巡視に御疲れの色もあらせられぬ東久邇第二師團長官殿下には愈々

御巡視 最後の御豫定

の本廿三日午前九時住吉屋本店を御發自動車にて湯本經由小名濱築港に御成遊ばされ福來築港事務所長の工事状況を御聽取の上同所長の御案内で港内

各施設 を御視察午前

十時廿五分には豊間燈臺に

火力製材に

才槌區民大反對

其筋に猛運動開始

平町才槌小路色川製材工場にては從來電力設備であつたのを火力に變更すべく其筋に出願したが此の事を聞き知つた同區民は同工場から前後三回も火災が起きて相當の被害を蒙り日頃不安を感じて居る折柄である爲め火力に變更替の曉は更らに火災の危険率が増大すべく事態を憂慮し大舉して其筋に設備模様替不許可の運動を開始する準備中である

各學校は

明日から休暇

警中、平商、警女の各中等學校及び佑賢學舎、青年學校、警城訓官院では本日終業式を舉行明日より冬期休暇に入るが各學年共新年拜賀式は御遠慮申上げると

唱歌遊戯研究

石城郡第一區唱歌遊戯研究會主催の第四回唱歌遊戯講習會

は来る二十九日より三日間毎日午前九時から午後三時迄植田小學校講堂で開催されるが講師は今泉薫氏で科目は左の如くである

あられとみぞれ 豆まき
お正月 らくわんさん
鳥の言葉 大寒小寒 夕

日限切迫と共に

賀狀一時に襲來

平局は各係員を増加す

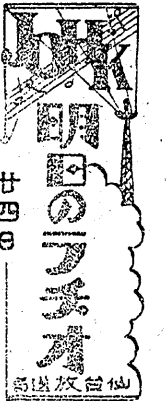
本日迄の引受數

平郵便局では去る廿日より年賀郵便の取扱ひを開始し賀狀洪水に備ふべく配達及び引受係員増加したが受付開始當日よりの引受數は廿日に四千四百九十一通、廿一日は三千九百四十四通、廿二日は四千四百四十四通、計一萬

分會との對立解消

海軍部の陣容一新

平町在郷軍人分會海軍班は分會との分離獨立問題で分會と對立紛糾を生じたが黒岩福島聯隊區司令官の調停により兩者の和解成り班長



今晩は北西の風 曇明日は南西の風 曇後晴

今晩の部

- 後六、〇〇 (子供の時間 兒童劇のらくろ演藝會)
- 長谷山雅音音樂會
- 後六、二五 ことばの講座 「子供の日常用語と國語讀本」 田原美榮
- 後七、三〇 時事解説 商工次官 吉野信次
- 後八、〇〇 義太夫「傾城阿波の鳴戸」 淨るり豊竹昇之助 三味線豊澤力松
- 後八、四〇 連続ラヂオドラマ
- 燒小焼 京人形 花嫁狐 さくら 親なし鳥 昭和の光 風かくれんぼ

法曹團忘年会

平區才判所を始め刑務所在平辯護士より成る平町法曹團では来る二十六日午後六時より住吉屋本店に於いて忘年会を催す

裁判所だより

△宮城縣生れ目下住居不定氏家勇(三)が平町銀泊町吉田屋呉服店の呉服日掛集金係りとして勤務中組合員四十九名より集金したる掛金九百九十二圓八十錢を横領費消した事件は過般平檢事局に於て清田檢事係りの下に取調中であつたが本日業務上横領罪として起訴されたので来る二十六日午前九時より中島判事係り清田檢事立會の下に第一回の公判を開延すと

平職業紹介所報告

△人々を求めの方
△女中 十六才 尋卒 給料面談

- オーケストラ
- 前二〇、〇〇 クリスマス 禮拜實況 靈南坂基督教會より中繼
- 前二〇、四〇 講演「現代日本の製鐵業に就て」 大阪帝大教授工學博士藤井寛
- 前二一、一〇 講演「文學と宗教」 今春聴
- 後〇、五〇 満洲より 昭和八年に於ける關東軍の沿動を顧みて 關東軍參謀 遠藤三郎
- 後六、〇〇 講演
- 後六、二五 産業ニュース 「子供の夕」
- 後七、三〇 トライオーケストラとクリスマススカロルトライオーケストラ
- 「鐘が鳴る」河合ハナ編曲 東京基督教女子青年會少女部會員指揮ピアノ伴奏 河合ハナ
- 後七、四〇 おはなし「クリスマス」 村岡花子
- 後七、五〇 音楽とお話 サンタクロースの家から プレセント 大阪梅花女學校生徒神戸女學院生徒 後八、三〇 童話劇「野武士と小さいお友達」 名古屋 ABC 座
- 後八、五〇 器樂四重奏 「銀の星」 四重奏團
- 後九、〇〇 童話劇「愛の在るところに神様も居ります」 川村信彌案
- 後九、三〇 時報 ニューリス 氣象通報 番組豫告

一冊の代金で

御希望通りな

五冊の雑誌が

自由に讀める

川崎巡文庫

電六三〇番

(申込次第規則書送早)

謹啓社長佐々木喜代治儀病氣の處養生不相叶本日午後三時二十分死去任候間此段御通知申上候 敬具
追而葬儀は來十二月廿四日午後二時自宅出棺於大寶寺告別式施行仕候間申添候也
昭和八年十二月廿二日

株式 丸ほん商店



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第百二十二回 此處に崇る妖刀

貴方は采さまが

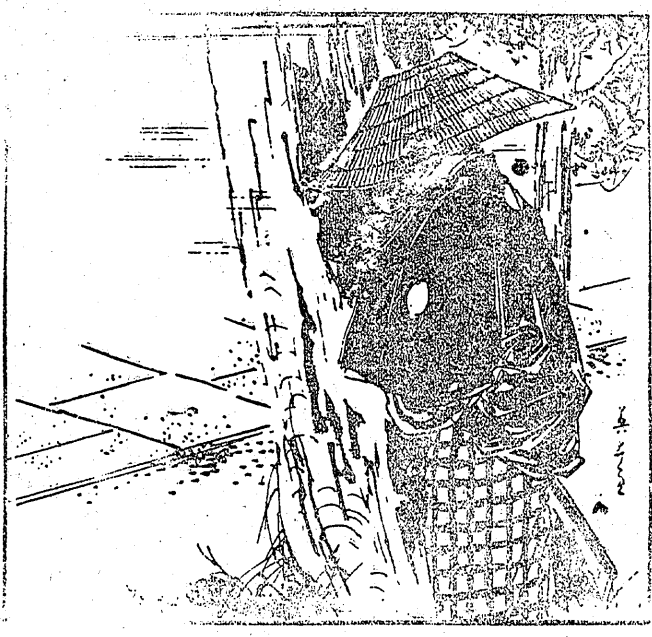
紋「それは紋彌申上げるまでもございませぬ東照神君村正を不吉の刀として忌み給ひしと承はる、されば後生に至つても村正を忌むはこれ東照宮の御心を奉ずるものにて、君にも御遠慮あつて然るべくと存じまする」

隱「黙れ紋彌、その昔東照宮の村正を忌み給ひたるはこれその刀を見るたびに岡崎三郎殿の事を思ひ出されるが故であつた、それより百八十年を経たる今日村正の刀を帶するに何の遠慮があらうぞ」

紋「御道理にはございませぬが總じて刀には相性あり恐れ多き事なれども村正の刀は徳川御一門に崇りをなすと申し傳へ、是までも屢々この悪劍の爲に害を受けたる例がございませぬ。御買上の儀は何卒御とまり下さいますし」

隱「ナニ悪劍とは何だ、未だ求め遣はさるる内に他人の刀に悪名をつけるといふは物を心得ざる奴、控へ居れつ」

とサツと主人の景色をつたからこの上諫めて往來



で手討にでもなつたら自分は兎に角主人の外聞と氣がついたから田邊紋彌はハツといつて其儘口を閉ぢ後へ退つた、尤も村正に就ては全く多くの悪例がある、併

が、さうく村正の打つた刀が何れも悪かつたのではなからう、随分狂言作者や講釋師が村正を種にして無形の事を作つたのもあれば外の刀を村正にしてしまったのもある、詰り其の人の不徳とは云ひながら氣の毒なものである。岡山の隱居は紋彌を叱り退けた後隱「コレ女、その方は何者の妻か、娘か、名は何と申す」

女「ハイ私事は京の侍天方采女の妹雪江と申す不束か者にういます」

ち兼ねまする次第にございませぬ
○「何にいたせ途中にては萬事不都合、明日屋敷へ持参いたせ」
雪「有難う存じます、左様なれば明日御屋敷まで持参仕りまする」
○「オー待つて居るぞ」
と言葉を残して家來と悠々矢大臣門を花川戸の方へ出て行く、女は其の後影の見えずになるまで頭を下げて控えて居たがやがて立上つて塵打ち拂ひキツと邊りを見渡す所へ茶店の蔭から立出でたるはこれも八丈笠を被り身に餘る程の大小を横たへるいと立派なる武士がツカ／＼と女の傍へ寄つて何やら囁けば女は心得

雪「それでは私は先に行きますぞえ」
武「オ、立戻つて待つておやれ」
女「アイ」
と答へて右の女は例の刀を持つたまゝ何處ともなく立去つた、武士も續いて行かんとする時此方の茶店の内から立出でたるはデツプリとした四十五六の商人体の男「御武家様一寸御持ち下さいますし」
武「ア、某であるか」
商「ヘエ」
武「何用でござる」
商「誠に失禮ではございませぬが貴所様は天方采女様と仰しやいますか」
武「如何にも拙者天方采女でござる」
商「扱は若旦那様でござる

ましたか御健勝の体を拜しこんな喜ばしい事はございませぬ」
武「シテ御手前は」
商「貴所様は御存じございませぬが私は佐野屋傳右衛門と申す商人で、先づこれへ御かけ下さるやう」と右の武士を床几にかけさせ
傳「私は貴所様の御親父部式様には大恩を受けましたるもの、仔細あつて江戸を遂電いたし京都へ上つて彼方で幽に暮して居ります中に不圖したことから式部様の御引立によつて御公郷様方へ御出入をいたすやうになり、それから段々身上を拵へ再び江戸へ戻つて本所の郷で質屋渡世を始め先年式部様が御下伺の節御目に掛り貴所様の事も伺ひました、承れば式部様は江戸御滞在中に行衛不明におなり遊ばしたとの事でお案じ申して居りました」

しその總べてが皆事實であるか何うかは信じられない
正宗も村正も名刀であつたが正宗は身を護る爲の刀にして人を斬るために作らぬといふ趣意であつたから穩かであるが村正は氣が荒く斬れるやうに心掛て打つたから多く狂暴沙汰に用ひたやうに言ひ傳へられ

○「然らば其方の兄といふは京家の侍であるか」
雪「ハイ」
○「シテ其方夫はないか」
雪「エエ左様なものにはございませぬ」
○「當時、何れに住居いたす」
雪「神田久門町源兵衛店に住むその煙りも立

ましたか御健勝の体を拜しこんな喜ばしい事はございませぬ」
武「シテ御手前は」
商「貴所様は御存じございませぬが私は佐野屋傳右衛門と申す商人で、先づこれへ御かけ下さるやう」と右の武士を床几にかけさせ
傳「私は貴所様の御親父部式様には大恩を受けましたるもの、仔細あつて江戸を遂電いたし京都へ上つて彼方で幽に暮して居ります中に不圖したことから式部様の御引立によつて御公郷様方へ御出入をいたすやうになり、それから段々身上を拵へ再び江戸へ戻つて本所の郷で質屋渡世を始め先年式部様が御下伺の節御目に掛り貴所様の事も伺ひました、承れば式部様は江戸御滞在中に行衛不明におなり遊ばしたとの事でお案じ申して居りました」

ましたか御健勝の体を拜しこんな喜ばしい事はございませぬ」
武「シテ御手前は」
商「貴所様は御存じございませぬが私は佐野屋傳右衛門と申す商人で、先づこれへ御かけ下さるやう」と右の武士を床几にかけさせ
傳「私は貴所様の御親父部式様には大恩を受けましたるもの、仔細あつて江戸を遂電いたし京都へ上つて彼方で幽に暮して居ります中に不圖したことから式部様の御引立によつて御公郷様方へ御出入をいたすやうになり、それから段々身上を拵へ再び江戸へ戻つて本所の郷で質屋渡世を始め先年式部様が御下伺の節御目に掛り貴所様の事も伺ひました、承れば式部様は江戸御滞在中に行衛不明におなり遊ばしたとの事でお案じ申して居りました」

ましたか御健勝の体を拜しこんな喜ばしい事はございませぬ」
武「シテ御手前は」
商「貴所様は御存じございませぬが私は佐野屋傳右衛門と申す商人で、先づこれへ御かけ下さるやう」と右の武士を床几にかけさせ
傳「私は貴所様の御親父部式様には大恩を受けましたるもの、仔細あつて江戸を遂電いたし京都へ上つて彼方で幽に暮して居ります中に不圖したことから式部様の御引立によつて御公郷様方へ御出入をいたすやうになり、それから段々身上を拵へ再び江戸へ戻つて本所の郷で質屋渡世を始め先年式部様が御下伺の節御目に掛り貴所様の事も伺ひました、承れば式部様は江戸御滞在中に行衛不明におなり遊ばしたとの事でお案じ申して居りました」

ましたか御健勝の体を拜しこんな喜ばしい事はございませぬ」
武「シテ御手前は」
商「貴所様は御存じございませぬが私は佐野屋傳右衛門と申す商人で、先づこれへ御かけ下さるやう」と右の武士を床几にかけさせ
傳「私は貴所様の御親父部式様には大恩を受けましたるもの、仔細あつて江戸を遂電いたし京都へ上つて彼方で幽に暮して居ります中に不圖したことから式部様の御引立によつて御公郷様方へ御出入をいたすやうになり、それから段々身上を拵へ再び江戸へ戻つて本所の郷で質屋渡世を始め先年式部様が御下伺の節御目に掛り貴所様の事も伺ひました、承れば式部様は江戸御滞在中に行衛不明におなり遊ばしたとの事でお案じ申して居りました」

美味いと思つて食べると何んでも滋養になると云ふ譬で
風味のよい滋養御飯が炊け
最も經濟に安全簡易に御使用の出来る
特許一八七四三〇石山式
商地球印石綿ムシカマド
を皆様にお勤め申します

●特長 石綿ムシカマドは
一、滋養のある「オネバ」が少しも溢れせんから、申分のない榮養食になる譯です。玄米、胚芽米、半搗米でも榮養價値を失ふ事はありません。
一、普通七製ムシカマドの様に木炭熱量を吸収することなく、石綿天然性により遮熱作用により木炭消費量の低減を計り燃料は最も經濟です。
一、ムシカマドに最も必要なる保温を目的とする原料を高級石綿(加奈陀産)と最も効果的に配合してありますから永く保温を持続致します。
一、普通土製ムシカマドの三分の一の輕量ですから御老人御子供さんでも御使用が出来、誠に安全で簡易です、随つて破損の憂もありません。
御使用になればなる程、強靱を増し永久御使用に堪へます、若し破損の場合は部分品は自由に御取換が出来ます。
一、火の元は絶對安全ですから警察でも獎勵されて居ります。
一、堅牢無比、高尚優美、部分品取換の自由、輕量のため取扱の簡便安全、燃料の節約等普通ムシカマドの缺點を遺憾なく補足し、その上價格低廉。
一、外觀は高級塗料を以つて防水防熱に適し、銀色仕上り故最も高尚優美な点は他の追従を許しません。
◎特約店御希望の方は御申越下さい。
特許一八七四三〇號

長唄
花柳流
舞踊
御稽古を
おすゝめ
致します
花柳三郎
研究所
町田七二
平町
花柳舞踊流
研究所
花柳三郎
杵屋十茂代

木村科醫院
平町五丁目橋際
電話九〇三番

石山商店
石綿ムシカマド製造元
石綿工場
平村木町三〇 電話一三七